

地域共生社会に向けた包括的支援と多様な参加・協働の推進に関する検討会
(第7回)

第7回地域共生社会推進検討会
令和元年10月31日

資料2-1

地域共生社会の実現へ向けて
—専門職による地域づくりへの参画—

2019年10月31日

公益社団法人 日本医師会
常任理事 江澤 和彦

倉敷も地域包括ケアシステムの構築推進へ

- 倉敷医師会「地域包括ケアシステム委員会」発足
(2015年3月)
- 倉敷市「地域包括ケア推進室」立ち上げ(2015年4月)
- 倉敷市「認知症初期集中支援チーム」キックオフ
(2015年5月)
- 倉敷市の地域ケア会議は2007年から4地区同時スタート
- 水島地区では2014年に「ほっとオレンジカフェ」オープン

倉敷市地域ケア会議(水島地区)委員

- 医師会
- 歯科医師会
- 薬剤師会
- 介護支援専門員協会
- 民生委員
- 愛育委員
- 栄養委員
- 水島社会福祉協議会
- 福田高齢者支援センター
- 水島保健福祉センター
福祉課
- 水島保健推進室



倉敷市水島地区地域ケア会議

平成20年1月24日決議

水島地区の地域づくりの理念

⇒「みんなが支えあって暮らせる

想いやりあふれる街づくり」

地域ケア会議主催の地域住民との集い

- 第1回 2010年度(2010.6) 参加人数47人
「みんなで支えあって暮らせる想いやりあふれる街づくり」
～認知症の方を地域でどう支えていくか～
講演:地域で支えよう!! 認知症～診断・治療から予防まで～
- 第2回 2011年度(2012.3) 参加人数46人
「みんなで支えあって暮らせる想いやりあふれる街づくり」
～いざという時大丈夫?災害から命を守る地域の『絆』～
- 第3回 2012年度(2013.1) 参加人数46人
「みんなで支えあって暮らせる想いやりあふれる街づくり」
～地域包括ケアシステム実現に向けて～
講演:住み慣れた地域で住み続けるために
- 第4回 2013年度(2014.2) ワークショップ形式 参加人数48人
「ポケても我がまち」
～認知症になっても暮らし続けられる地域づくり～
講演:尊厳ある暮らしを育む地域へ向けて

地域ケア会議主催の地域住民との集い

- 第5回 2014年度(2015.2) ワークショップ形式 参加人数49人
「ポケても我がまち」
～認知症になっても暮らし続けられる地域づくり パート2～
講演:認知症の方に寄り添う地域づくり
- 第6回 2015年度(2016.2) ワークショップ形式 参加人数49人
「ポケても我がまち」
～認知症になっても暮らし続けられる地域づくり パート3～
講演:認知症の方を支えるために
- 第7回 2016年度(2017.1) ワークショップ形式 参加人数45人
「やさしさあふれるまちづくりへ向けて」
～やさしさで広げよう幸せの輪～
講演:人にやさしく!人を大切に!最期まで尊厳ある暮らしをおくるために
- 第8回 2017年度(2018.1) ワークショップ形式 参加人数71人
「認知症から拡がる幸せの輪」
- 第9回 2018年度(2019.1) ワークショップ形式 参加人数71人
「認知症から拡がる幸せの輪パートII」



水島地区地域ケア会議ワークショップ



＜水島地区地域ケア協議会＞

ほっと

オレンジカフェ

みんなで楽しいひとときを過ごしませんか？
お気軽にお立ち寄りください。

◆ ほっとオレンジカフェとは ◆
認知症状がある方、あるいはその家族、地域の方、
医療や介護の専門職が気楽に集まり交流する場です。
詳しくは各センターへお問い合わせください。

◆◆◆ お問い合わせ先 ◆◆◆

◎ 倉敷市水島高齢者支援センター (TEL: 446-6511)
担当小学校区: 第四福田小・第五福田小・水島小

◎ 倉敷市福田高齢者支援センター (TEL: 455-5132)
担当小学校区: 第一福田小・第二福田小・第三福田小

◎ 倉敷市連島高齢者支援センター (TEL: 444-3200)
担当小学校区: 連島東小・加丘小・連島神竜小
連島西浦小・連島南小・轟丘小

水島地区ほっとオレンジカフェ開催場所

※地図の「★」が、ほっとオレンジカフェの開催場所です

連島高齢者支援センター

★西浦ふれあい会館
毎月第2金曜日 10:00~11:30

連絡先: ☎444-3200
倉敷市神田2-3-27
(特別養護老人ホームみどり荘内)

担当小学校区
連島中、連島南、連島西浦、
連島神竜、加丘、轟丘

福田高齢者支援センター

★和光園敷地内旧保育園
毎月第3月曜日 10:30~12:00

連絡先: ☎455-5132
倉敷市東丘5-4-50
(老人保健施設和光園内)

担当小学校区
第一福田、第二福田、第三福田

水島高齢者支援センター

★旧デイサービスセンター水島
毎月第1木曜日 14:00~15:00

★ケアハウス千鳥
毎月第3木曜日 14:00~15:00

連絡先: ☎446-6511
倉敷市水島向春日町13-1
(医療生活協会の)

担当小学校区
水島、第四福田、第五福田

(注) 2015年8月 現在の状況です。
会議の都合により日時を変更することがありますので
参加される場合には、必ず各高齢者支援センターへ
お問い合わせください。



平成27年度水島地区地域ケア会議事業計画

1 ワークショップの継続

(認知症に対する正しい知識の普及)

2 ほっとオレンジカフェの充実

3 地域課題への支援

(1) ボランティア団体等のネットワーク体制構築

(2) レスキューチーム派遣

4 自助・互助への支援

(1) 認知症マイスター養成

(2) 認知症パンフレットの作成

(3) 認知症出前講座の開催

認知症マイスター研修

認知症やその症状について理解し、伝えていただくリーダーになっていただける方、是非ご参加ください

※研修名※

高敷市水島地区認知症マイスター研修（モデル研修）

※目的※

地域住民に対して、認知症の特徴や関わり方を正しく伝えることができる人材を育成します。

一定の研修を終了され、マイスターに認定された方は、地域の皆さんに、地域保健師や高齢者支援センター職員と一緒に、認知症についてや具体的な対応方法などを伝えていただきます。

※主催※ 高敷市水島地区地域ケア会議

※研修日程※

開催	スケジュール	会場	内容
11/4 (木)	10:00-12:00 講義	ライオンパーク会館 第3会議室	◎プレインテークション の講話：「認知症の理解とあゆみ」 講師：倉敷スイートホスピタル 理事長 江津和徳氏
11/5 (木)	見学実習 (※時間確保)	地域のグループホーム等	◎実習先の指示による

※連絡先※

高敷市水島高齢者支援センター (Tel: 446-6511)

高敷市福田高齢者支援センター (Tel: 455-5132)

高敷市連馬高齢者支援センター (Tel: 444-3200)

※オレンジ色は、認知症啓発活動のシンボルカラーです



水島地区認知症マイスター養成研修



水島地区認知症マイスター養成研修

大活躍!!!
認知症マイスター



認知症マイスターの方々の役割

地域と認知症当事者・家族の橋渡し



水島地区認知症マイスターのつどい 2017年7月7日

地域ケア会議における地域づくりの「仲間づくり」の取り組み

●「認知症マイスター」養成

対象：地域住民

研修：2～3時間の座学＋2～3時間の実習の受講

内容：認知症に関する基本的知識の修得と介護施設等で認知症の方と触れ合い、実際にコミュニケーションを図る実習を履行し、認知症の方への適切なかかわり方が実践できるよき理解者として認知症の方や家族を支え、地域づくりに資する人材を養成する。

●「地域マネジャー」養成

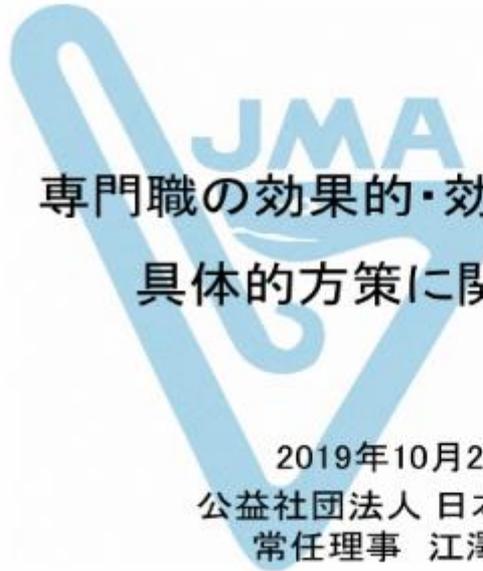
対象：認知症マイスターを取得した地域住民

研修：未定（座学＋実習を想定）

内容：医療や介護に関する基本的知識の修得に加え、医療・介護関連の制度への理解を深めることにより、地域住民の相談に気軽に応じ、地域のパトロールを通じて、廃用症候群やフレイルの早期対応や孤独死の早期発見に努める等の地域づくりに資するリーダーを養成する。

水島地区地域ケア会議の課題と今後の展望

- 住民が主体となる自助・互助
- オール水島：地域ケア会議委員の編成
- 互助の強化：ボランティア団体の尊重と
地域リーダーの養成
- 全世代対応：子供、若年層への対応
- 2025年・2040年：中長期を見据えた運営



専門職の効果的・効率的な関与の 具体的方策に関する提案

2019年10月21日
公益社団法人 日本医師会
常任理事 江澤 和彦

医師会等の関係団体との緊密な連携による「協働体制」の構築

- 地域づくりの視点を踏まえた通いの場の情報共有と通いの場への支援に関する協働
 - ⇒医師会等が市町村の地域支援事業における相談窓口を担当する仕組み
- 「医療専門職等の連携と役割」に関する医師会等との定期的協議の場
 - ⇒地域の実情に基づいた通いの場へのかかりつけ医と医療機関等の支援方策を議論
- 「高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施」等に関する医師会等との協働
 - ⇒企画立案段階及び事業開始後における医師会等との定期的連携による質の向上

医師会の支援体制による新たな地域リハビリテーションの体制の構築

- 都道府県リハビリテーション協議会・支援センターの設置・充実
 - ⇒都道府県医師会・地区医師会との密接不可分な連携体制の構築
 - ⇒都道府県医師会・地区医師会によるリハビリテーション支援体制構築
- 地域リハビリテーション広域支援センターの設置・充実
 - ⇒都道府県医師会・地区医師会の連携に基づく医療機関の参加支援
- 地域リハビリテーション活動支援事業の充実と質の向上
 - ⇒地区医師会が市町村の窓口となりリハビリ専門職の派遣を支援
 - ⇒地区医師会等との連携に基づいた定期的協議による「見える化」と質の向上
 - ⇒地区医師会等との協働による地域づくりの視点を見据えた人材育成
 - ⇒地域包括ケアの深化・推進に資する地域リハビリテーションの充実

かかりつけ医の機能

かかりつけ医は、就業形態や診療科を問わず、「医療的機能」及び「社会的機能」の両方を有する。

医療的機能

日常行う診療においては、患者の生活背景を把握し、自己の専門性に基づき、医療の継続性を重視した適切な診療を行い、自己の範疇を超える様々な診療科にわたる広い分野において、地域における連携を駆使して、的確な医療機関への紹介（病診連携・診診連携）を行い、患者にとって最良の解決策を提供する。

自らの守備範囲を医師側の都合で規定せず、患者のもちかける保健、医療、福祉の諸問題に、なんでも相談できる医師として全人的視点から対応する。

社会的機能

日常行う診療の他には、地域住民との信頼関係を構築し、健康相談、健診・がん検診、母子保健、学校保健、産業保健、地域保健等の地域における医療を取り巻く社会的活動、行政活動に積極的に参加するとともに保健・介護・福祉関係者との連携を行う。

また、地域の高齢者が少しでも長く地域で生活できるよう在宅医療に理解を示す。



リウマチ教室



介護予防教室



出前講座



オレンジカフェ(倉敷スイートホスピタル) 13



2019.5.12 日

第1部 開演 10:00
第2部 開演 13:00
(各1時間程度の子定)

会場 倉敷スイートタウン1F エントランスホール

出演

オーボエ 荒島 幸代 岡山県出身
くらしき作陽大学大学院2年 オーボエ専攻在籍中

ピアノ 坂本 穂波 広島県出身
くらしき作陽大学大学院を修了

司会：倉敷スイートホスピタル 音楽療法士 井上 貴絵





9月14日はスイートホールを使わせて頂き有難う御座いました。
お陰様で素晴らしい思い出が出来ました。21名全国から集まって頂き、
個々よりプロジェクターで昔の写真を写しながらメッセージを頂きました。
来れなかった方からはビデオレターを頂き映してくれ本当に感動しました。
皆さん、病院の綺麗さと看護師さんの気配り優しさに感銘しておりました。
来年も同じ時期に開催予定ですのでその折は、宜しくお願い致します。

8月29日で入院一年が経ちました。
皆さんに本当に良くして頂き、お陰様で体調は良いです。
私はこの病院に入院させて頂き、呼吸器を付けて良かったと心から思っております。
これからも宜しくお願い致します。
失礼致します。

江澤理事長様

紙パンツを自分で履かれて患者さんの気持ちを体験された話は感動しました。

私は初めて履いた時は悔しくて辛くて洗面所で家内と号泣しました。

この悔しさ辛さ屈辱感は体験しないと気持ちはわからないと思います。

今の私の目標は、私の故郷香川県仁尾と第二の故郷宇部に帰る事です。

必ず奇跡を起こします。そう信じて毎日頑張っていこうと思います。

地域包括ケアシステム構築10か条

1. 本質は「地域づくり」「まちづくり」
2. 「住民」が主人公として取り組む総力戦
3. 課題を踏まえ住民共に築く「ご当地システム」
4. 「医療介護連携」から「異業種・異分野連携」へ
5. 「自助」「互助」は不可欠
6. 「全世代対応型」システムの構築
7. 若者や子供たちの「住み慣れた地域」の視点
8. 医療も介護も「生活の視点」の重視
9. 地域の一員として「地域づくり」へ参画
10. 地域力を左右する地域への「愛着」「思い」

尊厳の保障へ向けて

好き好んで病気や障害をきたしている人はいるはずもなく、誰もがその人にとっての本来の普通の生活を望んでおり、その生活の実現すなわち尊厳の保障を実行することが我々の役割である。